

## 初めての中国

菊池幸太郎

皆様初めまして、2018年度の埼玉親善大使として中国の山西省に留学している菊池幸太郎です。この機会を与えてくださった埼玉県庁の方々、自分の家族に感謝申し上げます。任期中、埼玉県のアピールと自分の中国語の向上を目標にして頑張っていきます。このレポートを通じて自分の目を通した中国の発信、また山西省への留学に興味がある方への助けになればよいと思います。

2018年8月29日に北京経由で太原空港に到着しました。期待と不安を持ちながら大学に付いたのですが、かなり大変なスタートになりました。新学期が9月5日頃から始まるということで、大部分の学生は実家から帰ってなく大学内の店はほとんど閉まっていた。中国の大学の学生は、多くが大学内に設置された寮に住んでいるため大学の敷地が日本の大学とは比べ物にならないくらい広い。大学内には100弱ほどの食堂のお店、美容院、スーパー、クリーニング、携帯電話ショップ、病院と何でもそろっています。周りの長さが2キロほどの湖もあり、学生がランニングや、しゃべりながらジョギングをしています。そんなたくさんのお店のほとんどが閉まっていたため最初は大変でした。

現在は授業も始まり、太原での生活も1カ月経ちようやく慣れてきました。今回は1か月生活してみた感想と食について書きたいと思います。

太原は日本の南東北あたりにあたるので9月でも朝夜は寒くなります。空気はそこまで悪くないですが、空はよく曇っています。太原の特に良いところは2つあります。1つ目は雨が全然降らないことです。1か月ほど生活して、雨が降った日は2、3日しかありません。自分は雨が降ると気分が沈むので、すごく嬉しいです。2つ目に英語表記がほとんどないことです。大学内でも太原市の中心に出てもほとんど英語の表記はありません。また、店員さんも自分が中国を全然わからないと知っていても、ガンガン中国語で聞いてきます。最初は圧倒されて注文するのが怖かったですが、中国語を勉強する環境としてはこの上なく良いところです。そのおかげで、最低限の中国語はすぐに身に着けることができました。

次に食についてです。皆さん、旅行は好きでしょうか？旅行の楽しみは何で

しょうか？自分は海外旅行が大好きで、一人で時間とお金があれば旅行によく行きます。そこで一番に楽しみにしているのが現地での食です。今では日本でも、海外の食べ物は簡単に食べることができますが、やはり本場の味は違うと思います。日本では日本人好みに味が調整されているため、本場の味がいつでも美味しいかといわれると疑問ですが、新しい味に出会うという点では試す価値はあると思います。これから、中国の学生、中国人がどんなものを食べているかを簡単にこのレポートを通じて紹介していきたいです。

第1回目は一番オーソドックスな「盖饭 gaifan」です。これは自分で好きなおかずを選んでご飯にかけてもらうものです。日本人の間で「ぶっかけ飯」と呼んでいます。盖饭のお店は人気で一つの食堂に5, 6店舗あります。おかずは3つほど選べて種類によって値段が変わります。野菜料理3種で7元(120円程度)、肉料理1種、野菜2種で9元(150円程度)と値段は安く、またとても量が多いです。難点は時間によってはおかずが冷めている点です。しかし、日替わりで種類も変わるので安い、多い、美味しいと学生の強い味方です。



三素（野菜料理3種）

一荤二素（肉料理1種 野菜2種）

二荤一素（肉料理2種 野菜1種）

二素二荤（肉料理2種 野菜2種）